

溪流環境の保全と地域の防災活動に関する活動

NPO法人甲斐駒清流懇話会

はじめに

甲斐駒清流懇話会は平成19年の春に国土交通省の環境保全計画審議会の委員として審議を続けていたがその活動が終了するときに、溪流環境の保全を地域活動として継続したいと望む委員が残り、非営利団体として甲斐駒清流懇話会を組織することになり、活動を始めました。山梨県は昭和34年に台風に寄る大災害によって引き起こされた土石流により、現在北杜市となっている北部地域は日本三大河川の富士川によって大洪水に逢いました。その富士川西側支流の大武川、尾白川沿いの地域はその時の土石流により多くの尊い命を失い、家屋、家畜、田畑などの全ての財産を失い荒れ果てましたが、その後の様々な防災工事で復興し、美しい自然と共に生活環境は改善しました。しかし、災害は忘れた頃にまたやってくるのです。その後昭和57年にも大きな台風に寄り、田畑は流されましたが幸いにも人的被害は少なかったのです。それはしっかりした河川等の防災工事によって、被害は最小限に食い止められたのです。その経験から地域住民は防災の重要性を知ることとなりました。その歴史と経験を忘れることなく、地域の災害の歴史を後世に語り継ぐ必要があると私達は地域住民や子供達に防災思想の普及活動をすることにしました。手始めに災害にあった地域住民から体験談や思い出を語ってもらう聞き取り調査を行い、それを記録し、失われた昔の町並みや遊んだ川などの思い出マップを作成しました。それからいま自分たちが住んでいる地域は南アルプス山麓の美しい自然や美味しいお米のとれる豊かな資源は溪流環境の保全にあるということを知ってもらう活動を始めました。しかし、作成した資料を住民に配付するだけでは趣旨は伝わらないだろうと、ボランティアを多く集め、地域でいろいろな防災に関するイベントをしながら共に考えていくことが大事なことでないかとチームを作って、それぞれの経験を生かした活動を広げてまいりました。15年の歳月をかけて活動した会のさまざまな普及運動は北杜



思い出マップづくり



啓発資料

市の年間の恒例行事となり地域住民だけではなく、県内外からの一般の人々も参加する大きな事業になってきました。5年前にNPO法人となり会の活動内容も四部門に分け、①災害の歴史を語り継ぐ部会、②環境教育を行う部会、③企業が中心に地域の発展を考える部会、④防災工事等を担当する企業が集まる地域の安全を考える部会としました。部会はそれぞれに協力しながら年々、活動の範囲を広げています。環境教育と自然災害から身を守るための防災思想を普及する非営利活動団体として、自治体や財団等からの助成金で経費を工面しつつ行政、企業、地域住民と協働の事業を行い、独自の環境活動と自然環境の保全管理をする活動を

進めています。

活動その1.「甲斐駒清流ウォーク」

地域住民はもとより広く多くの県民の参加を募り、台風災害に寄って被災地となった地域を歩き、溪流環境の復興と自然環境の保全の大切さを知ってもらうイベントです。現在では日本名水百選に選ばれている美しい流れの尾白川や歴史的に有名な甲州街道を含む南アルプス山麓の美しい景観を楽しむ場所として多くの人が訪れているこの地域を観光的な要素を取り入れつつ被災地の歴史と共に美しく豊かに蘇った地域として紹介しています。内容は被災地となった武川町内と白州町内を毎年交互に歩く事をメインのコースとし、旧甲州街道や澄んだ清流の大武川や尾白川の溪流沿いを歩き、緑豊かな田園の風景や寺院・史跡を巡り、南アルプスや八ヶ岳山麓の景観をゆっくり楽しむウォークイベントとして開催しています。イベント開催時には企業からの物品提供や地域住民の労力をボランティアで協力してもらい、公共の施設を借りながら土石流被災地の歴史を学ぶための展示を行います。このウォーク



甲斐駒清流ウォーク1.



甲斐駒清流ウォーク2.

イベントでは土石流災害による被災地で復興のために活躍した安全部会の会員が溪流の遊歩地や堰堤で、これまで携わった災害復旧工事の現場写真の展示や水流の計測や魚の生態系等に関するクイズやゲームをして参加者を楽しませたりもします。

活動その2.「砂防校外授業」

活動する地域の小学校2校から毎年、児童・父兄を招き、防災工事で美しくよみがえった大武川の自然環境の中で、防災教育と環境教育を行います。幼児期の時代からの体験が必要と考え、土石流で被災した地域にある武川小学校、白州小学校の3年生の児童全員と父兄に災害の記憶として被災経験者が語り部になり災害の体験を話し、昭和34年の台風災害時の記録ビデオを見せて、防災マップ等の資料を配付します。国土交通省砂防事務所の協力により暴風雨体験車や自然災害体験車に試乗して台風の体験をし、溪流環境に住む魚の生態についての説明を聞き、実際に川に入って水に触れ、川虫を捕まえたり、カジカやヤマメを捕まえます。その後、児童達は思い出にセメントの手形を作りました。その手形は大武川の防災工事をしている堰堤に埋めました。また、日頃目にしないクレーン車やユンボなど防災工事に携わっている大型の建設重機の試乗は児童や父兄には普段体験することがないので大変興奮したり喜んだりしています。こうした校外授業は防災思想として普段の心構えに繋がってゆくことが狙いです。今ではこの事業は地域の小学校の環境教育の伝統行事となりました。



砂防校外授業 魚の生態系の説明

活動その3.「新しい溪流環境を考える委員会」

子供達の笑い声の聞こえる川をつくろうを合い言葉に地域住民の代表、地元企業、行政、学識経験者など



甲斐駒会議



神宮川見学会



溪流崩壊地見学



桜の植樹

を委員として南アルプス甲斐駒ヶ岳に繋がる溪流環境を見直し、防災と自然環境の保全を考える委員会を立ち上げました。自分たちの住む溪流環境の保全について、どうすれば美しい河川環境がつかれるのか、子供達が安心して川遊びができる環境づくりはどうしたらよいのか、また、河川整備の行き届いた先進地事例の見学もしています。また溪流環境の保全整備について住民の意見を聴集します。地域の住民からは多くの災害に関する河川整備についての要望や苦情がありますが行政に個人的に陳情するのではなく、意見をまとめ提案、提言をする方向に修正や指導をいたします。南アルプス山麓の溪流は崩壊が続き、味の良い武川米が収穫できる農地に土砂の流入が多くあり、農家を悩ませています。委員会では溪流奥域の崩壊地の現地見学をして、砂防事務所と共に土砂災害を防ぐための方策なども検討しています。

また、昭和34年に土石流で崩壊した河川の復旧工事が完成した記念に造られた砂防公園の保全や管理をボランティアで引き受け、毎年河川整備の為に草刈りや桜やツツジの植樹を行い、市民の為に憩いの場所づ

くりをしています。

活動その4.「人工産卵河川のメンテナンス」

防災の為に造られた砂防堰堤、河川整備によって川の流れが変わり、溪流に棲む川魚の産卵や遡上が困難になりました。そこで平成20年の春に第4の部会である地域の安全を考える部会のメンバーが中心になり、砂防事務所と共に川の流れや構造を見直し、山梨県の水産技術センターの職員の指導の下、釣り人のために魚の産卵を促したいと願う峡北漁協と協働で小武川奥域の本流の脇に人工産卵河川を造成しました。人工産卵河川でのイワナの産卵は成功し毎年多くの卵や稚魚を確認しています。多くの会員が参加して年1~2回の落ち葉の取り除き、河床の砂を整備するなどのメンテナンスを行います。平成23年に起きた台風に寄る土砂崩れで人工産卵河川は壊滅的な打撃を受けたのでもう産卵は無理かと思いましたが、砂防事務所や部会のメンバーが協力して復旧作業を行い見事に立ち直り、イワナの産卵を見届けることができました。昨年から人工産卵河川を公開して、現地での環境学習や防災施設の



人工産卵河川の看板



溪流まつり H25



人工産卵河川のメンテナンス



溪流まつり H26

見学会を行う事にしました。会員は今年も地元の小学校の児童や父兄を招いて、人工産卵河川的环境整備を行い孵化したイワナや成長の過程を学習するために人工産卵河川と砂防ダムの見学会を開催することになっています。

活動その5.「溪流まつり」

普及活動に役立つ新たな活動として溪流に棲む魚の紹介や自然環境の豊かな資源をPRするために企画された「溪流まつり」は道の駅「はくしゅう」の構内を借りて開催するイベントです。人工的に造られた小川にイワナを放流し、子供達に川魚の生態を紹介しながらつかみ取りをさせます。普段活きた魚を素手で捕まえることを経験しない子供達は大喜びです。大人達には天然資源の豊かさを学びながら子供が捕まえたイワナの塩焼きで川魚を味わってもらいます。このイベントは夏から秋の間に2回開催します。同時に国土交通省の協力による災害のパネル展示を行い、この地域に起きた土石流災害の歴史を見学できるようにします。このイベントと同じように白州町や武川町で開催する夏祭りに協力

し、北杜市が開催する白州名水祭りにも参加して溪流環境の紹介を行いながら、イワナの塩焼きや焼き芋や焼きモロコシの店を出します。この活動は年に6回ほど開催しています。

活動その6.「遊休地を利用した野菜作り」

溪流まつりのために地産地消の産物も販売しようと1昨年から遊休地を利用して、野菜の耕作を始めました。私達が活動する地域には肥沃な耕作地が後継者がいないために放棄されている畑が多くあります。陽あたりがよく、清流の流れもある豊かな土壌で育つ野菜を育ててイベントなどに利用したいと考え、手始めにサツマイモを植えました。北杜市には明野金時という甘い味で有名なサツマイモが収穫できる地域があります。その苗を植えて道の駅やイベント会場で焼き芋として売ったら活動資金も得ることが出来ると思いました。春に植え付け、秋に収穫したサツマイモは甲斐駒ヶ岳の山麓で育てた芋として「甲斐駒金時」と名付けました。始めから思惑通りに良質のサツマイモは収穫できませんでしたでしたが味は甘く大きな芋に育ちましたので、イベント



H25 収穫祭

のテントでイワナの塩焼きと共に販売をしました。大きすぎて焼き芋にならないものは干しイモにしました。そして、その耕作地で思いがけない産物としてりっばなカボチャも収穫できたのです。これなら他の種類も増やせるだろうと会員同士、次なる期待に胸を膨らませています。

おわりに

私達が活動する拠点は昭和34年と57年に起きた台風によって引き起こされた土石流で全てを流された被災地である北杜市武川町と白州町です。この地域に残る災害の爪痕は今でもあちこちにあるのですが緑豊かな自然景観の中に埋もれてしまって人々の記憶が薄れています。現在の住民の殆どが若い世代に変わりつつあり、災害の思い出を語る人々は徐々にいなくなっています。しかし、近年の地球環境の変動によって引き起こされる予想外の大災害が多くの人命や財産を奪っています。日本各地に起きる災害、大地震による大津波、火山の噴火による土石流、台風による大洪水などの被害が出る度に、県内の人々も昭和34年、57年に地元で起きた土石流災害を思い起こし、常日頃の災害に対する心構えや防災の準備は必要なのだと思います。だからこそ私達は今後も防災思想の普及と環境保全活動は継続して行かなければならないと考え、理想とす



玉砂利拾い



河川清掃

る河川整備の方法や自然が蘇る河川としてイワナやカジカなどの魚が棲める川として魚道づくりや溪流の環境整備を行政と共に考え、子供や市民が親しめる川づくりを進めています。また地元の伝統行事として行われている神宮川の玉砂利拾いに参加します。これはきれいな溪流の水に洗われた白い玉砂利を明治神宮に納める活動です。そうした活動の中で災害から身を守る為の防災思想を見童や多くの市民に対して啓発運動を進め、被災地の歴史を継承していく運動を続けて行きます。

NPO法人甲斐駒清流懇話会